

## インターネットの記事をむやみに使えない理由

インターネットの記事⇒署名がないものは不可。

## B I G L O B E ONLINE

ディズニー映画の悪役たちの共通点、それは「死にざま」にあった。悪役たちの死にざまを考察する。

8月4日(金) 16時30分 カラパイア

ディズニー映画の「悪役」には共通点があるという。

「極悪非道な気質で、謀略を好み、いやな笑い方をし、忠実な部下がいる」といったキャラクター的なものはもちろんそうなのだが、それらは共通点というよりはむしろ「悪役であることを示す記号」である。

ディズニー映画の悪役たちの場合、「悪役であるが故に」与えられた1つの共通点があるのだ。

それは「死にざま」である。どんな死にざまなのかというと・・・

「落ちて死ぬ」なのである。

### 【落ちて死ぬのがお約束】

"TV Tropes"(テレビの成句)というサイトがある。テレビをはじめ、映画、アニメ、小説、ゲームなど、ありとあらゆる創作物の「お約束」を収集・分析する、wikiタイプのユーザー参加サイトだ。

このサイトに「ディズニーの悪役の死に方」というページができてしまうくらいには、悪役が「落ちて死ぬ」のはお約束なのである。

Did you ever notice that a ton of Disney Villains fall?

"TV Tropes" での分析によると、悪役は本当に様々なところから落ちて死ぬらしい。崖はもちろんのこと、滝や木、あるいは塔やビルといった建物の上など。

岩などの重いものが一緒に落ちてその死を確実にするパターンや、珍しいところでは、宇宙船から放り出されて「上に向かって」落ちる例もあるとか。

落ちた先にもまた、様々なものが待ち構えており、間違ってもヒーローのように生き延びてしまうことがないようになっている。

地面や水のほかには、「溶岩や溶鉱炉、飢えた獣のいる穴、火、地獄そのもの、肉体を溶かす緑色の酸」などがある。

もちろん例外はある

何事にも例外はある。他の退場の仕方をする悪役もいるし、ヒーローの側にいるキャラクターでも「落ちて死ぬ」ことはある。例えば、ライオン・キングのムファサとかがそうだ。

ディズニー映画以外でも『落ちて死ぬ』悪役は結構多い。

color-2385116\_pixabay\_e

【なぜ悪役たちは「落ちて死ぬ」のか？】

では、何故そんなにも「落ちて死ぬ」パターンが多いのか？  
2つの理由が考察されていた。

#### 1. 残酷な描写をしなくて済む

まず一つの理由は、「残酷な描写をしなくて済む」ということだ。ディズニー映画の主要な客層である、小さい子どもたちを怯えさせずに済む。

もちろん、まともに想像すれば、地面なり床なりに「叩きつけられるという死に方が他の方法に比べてマシというわけではない」のである。けれども、あえてリアルに描写する必然性もないだろう。

sword-1078968\_pixabay\_e

## 2. ヒーロー・ヒロインが自分の手を汚さずに済む

もう一つの理由は、「ヒーロー・ヒロインが手を汚さずに済む」ということだ。悪役を野放しにしておくことはできないが、さりとて、ヒーローやヒロインが自分で殺してしまうというわけにもいかない。正当防衛で傷を負わせることはあるにしても。

そこで、悪役が自ら「落ちて」くれれば助かるのである。ヒーローは『俺の手につかまれ！』と叫んで悪役を救おうと一緒に落ちる」ことすらできるというわけだ。

そして、ヒーローとヒロインは「結婚して末永く幸せに暮らすなり何なり」できるのである。

ヒーローは、「悪役を自らの手で殺す」という罪を免れて、愛と正義の象徴という立場を保てる、というわけなのだ。

via: [Mirror Online](#) / TV Tropes など / translated by K.Y.K. / edited by parumo

こちらが元ネタ。



The screenshot shows a web browser displaying a news article from Mirror Online. The article title is "Disney villains nearly always suffer the same grisly fate - and there's a good reason for it". The author is Zahra Mulroy, Social Audience Editor. The article is dated 16:13, 24 JUL 2017 and was updated at 16:26, 24 JUL 2017. There are 2 comments. The article text begins with "With a couple of exceptions, a large number of our favourite baddies die in eerily similar circumstances". The browser's address bar shows the URL "https://www.mirror.co.uk/news/weird-news/the-walt-disney-company-disney-villains-nearly-always-suffer-the-same-grisly-fate-and-there-s-a-good-reason-for-it-1184821". The browser's taskbar at the bottom shows various application icons and the system tray with the time 17:43 and date 2019/04/30.

(悪い例)

## ～ ディズニー悪役の法則 ～

### ○ 問題

ディズニーの悪役には決まった倒され方がある。それは、どこかしらから落ちて死ぬことだ。“TV Troupes” (テレビの成句) というサイトがある。テレビを始め、映画、アニメ、小説、ゲームなど、あらゆる創作物の「お約束」を収集、分析する wiki タイプのユーザー参加サイトだ。このサイトに「ディズニーの悪役の死に方」というページが出来てしまうほど悪役が「落ちて死ぬ」にはお約束なのである。

### ○ 目的

ナイフで刺したり残酷なシーンがあまりないディズニー映画にはどんな根拠があるのか。

### ○ 方法

過去のディズニー映画で、悪役の倒され方を調べる。

### ○ 結果

悪役は本当に様々な所から落ちて死ぬらしい。崖はもちろんのこと、滝や木、あるいは塔やビルといった建物の上など。岩などの重いものが一緒に落ちてその死を確実にするパターンや、珍しいところでは、宇宙船から放り出されて「上に向かって」落ちる例もある。落ちた先にもまた、様々なものが待ち構えており、間違ってもヒーローのように生き延びてしまわないようになっている。地面や水の他には、「溶岩や溶鉱炉、飢えた獣のいる穴、火、地獄そのもの、肉体を溶かす緑色の酸」などがある。

もちろん例外もある。他の退場の仕方をする悪役もいるし、ヒーローの側にいるキャラクターでも「落ちて死ぬ」ことはある。例えば、ライオン・キングのファムである。ディズニー映画以外でも、「落ちて死ぬ」悪役は結構多い。

### ○ 考察

何故そんなにも「落ちて死ぬ」パターンが多いのか？ 2つの理由が隠されていた。まず1つの理由は、「残酷な描写しなくて済む」ということだ。ディズニー映画の主要な客層である、小さな子供を怯えさせずに済む。2つ目の理由は、「ヒーロー・ヒロインが手を汚さずに済む」ということだ。悪役を野放しにしておくことはできないが、ヒーローやヒロインが自分で殺してしまうというわけにもいかない。そこで、悪役自ら「落ちて」くれれば助かるのである。ヒーローは「俺の手につかまれ！」といいながら一緒に落ちることもできる。ヒーローは、「悪役を自らの手で殺す」という罪を逃れて、「愛と正義の象徴」という立場を保てる、ということだ。

## ○ 引用文庫

ディズニー映画